

## 第25期学友会執行委員会

# 執行委員長

執行委員長 六 信 和 義

プロフィール

商学部4回生

EDPS研究会

山羊座 A型



御入学おめでとう。

まずは月並みなお祝いの言葉を述べましたが、君達にとってはたくさんの人からこの言葉を聞かされ、もう何の感動も受けなくなったかもしれませんね。でも、灰色の受験地獄とまでいわれた時期をくぐりぬけ、大学に入学してきた君達は、この祝福の言葉を胸にこれからの4年間を過ごしてもらいたいのです。実際に大学に入ってみて、今まで描いていた理想に近い人もいれば、かなり掛け離れた人もいるでしょう。君達は大学進学という道を選んだ以上、自分自身で常に目標をもち、それに向って進まなくてはならないのです。

最近よく「はっきりと自分の主張を持った若者が少ない」と言われています。なぜ自分の主張を口に出して言えないのでしょうか。毎日の生活の中で、何も感じずにただ適当に暮らしているのですか。自分には関心がないからとか、関係ないからとかいって黙り込んではいけません。どんなわずかな事でもまず自ら興味を持ち、自分の主張を確立しなければなりません。

大学という所は、今までと違って「与えてくれる場所」ではありません。“勉強しなさい”とか“授業をサボるな”とか言ってくれる人はいなくなるでしょう。大学では、自主的な行動と意欲で、いろんな事を吸収するのです。受身的な姿勢では誰も相手にはしてくれません。積極的な考え方こそが大学生活を有意義に過ごす第一歩なのです。

君達には、大学に入ったら純粋に学問追究を目覚そうとか、サークル活動に専念しようとか、個々の目標があると思います。また、自分はただ何となく入学したとか、様々な人がいるでしょう。目標を今、持っている人は、それに向って進んでください。そうでない人は、この4年間に何か誇れるものを身につけてください。

大学生活の4年間は、本当にたくさんの方が経験できる所です。また自分の一生を左右してしまう所でもあります。この4年間で有効に使うのも、ムダにするのも君達自身なのです。

# 書 記 局

書記局長 西 濱 兼 行  
プロフィール

人文学部4回生  
安古市高校卒業  
射手座



今日からきみは大学生になった。  
それは悪い事じゃない。  
ひとつ聞いていい?きみにはこれこそはと信じれるものがあるだろうか?  
それでは、きみの信じてきた事実、また、信じ込まされてきた事実がはたして信じられるものなのだろうか?

きみが今日の今日まで正しいと思ってきた事、そして社会で認められていることの全てが、正当性を持つとは限らないというこの現実を、大学生になったきみは、理解しなくっちゃなんないんだ。時代の流れだとか趨勢だとかと一種の美名のもとに言い訳けなんかしてほしかない。それは逃避にはなっても解決にはならない。きみが主体性のある人間として生きるつもりならば、決して妥協という墮落をすべきではないんだよ。

主流であるかどうかを真偽を判断する手段にするのならぼくたちのこの自由は、鳥かごの中のカナリヤのさえずりにも等しいと言えると思わないか。きみは入学してしばらくたち、カルチャー・ショックの洗礼を受けて下宿の片隅でひざをかかえてためいきをつくだろう、ガラス片手に“こんなはずじゃ……”とつぶやくだろう。そうなんだ。こんなはずじゃないんだ。こんなはずじゃ……。大学は本当は“こんなはずじゃない”を“こんなはず”にするためのもののはずなんだよ。

新入生の諸君、きみたちの入学に、そして、その前途に乾杯しよう。

④



次長 圓石 貞祐(法4)  
植田 晋司(商3)  
局員 石田 佳司(法2)  
岡田 俊司(商2)  
松島加代子(商4)  
太田垣志保子(商4)

# 会 計 局

会計局長 平 山 秀 之  
プロフィール

人文学部3回生  
大門高等学校卒業  
アマチュア無線局  
出身地 福山



新入生の諸君、まずは入学御めでとう。君達は今、きっと大いなる開放感と多少のともだいを心の中に抱いている事でしょう。

オレは一生懸命勉強してやるゾノなどという人はあまりいないと思うけど、サークル活動にうち込もうとか、アルバイトやってお金を貯めようとかか……大学という所は君達は何も言れない限り何も答えてはくれないし、何の制限もしないでしょう。

けれども、君達が無意味な開放感からただのんびんだらりと日々を送ることは大変残念だと思う。私が君たちに大学生のあるべき姿を特別に教えよう。まず入学したら、より多くの友人を得るために合コン、合ハイを怒濤の如く繰り返し、更に友情を深めるために麻雀をし、互いに己を錬くために前、後期末にはノートとコピー等の知り得る情報を持ち寄り、切磋琢磨し、時には孤独を味わい、且つ集中力を養うためパチンコ台の前に座る。

もうこうなれば、あなたもしめたもの、知らぬ間に世間の人々が起きる時間に眠り、一仕事終える頃起きだすという一流の大学生。

きっと君は家族や近所の人々から特別な目で見られるでしょう。

要するに後でつまらん大学生活だったと悔やまない様に過ごして下さい。

PS 袖すり合うも多少の縁、何かあった時は、是非学友会室まで来てみて下さい。



次長 井上 武彦(法3)  
局員 下久保 昇(法2)  
八谷 雅子(商4)

# 体 育 局

体育局長 松 浦 浩 三

プロフィール

商学部4回生  
大三島高校卒業  
ボクシング部  
出身地 国宝の島



新入生諸君、御入学おめでとう。

君達はこれから、学生と呼ばれる最後の4年間を過ごしていくのです。

人生のほんのわずかではあるが、これからの君達を左右する重要な4年間、かなり自由な時、この4年間に何をし、何を得るか？専門知識？友達？今までと違った自分？人それぞれ、胸に秘めたものがあると思います。それらを本当に自分が得ようとするなら、なに事も自分からチャレンジしていかなければならないと思います。他人は何も与えてはくれません。何かが起こるのを待っていたのではだめです。また、その過程に楽な事はそんなにない。新しい世界へ飛び込むには勇気も必要でしょう。

自分は4年間こう生きたいと言う、一つの信念と行動をもって、大学生活を有意義なものとして欲しい。

最後に

生きたいように、生きることは  
つらくて勇気のいることかもしれない  
つらいからと逃げた  
安易な生き方は楽だけど  
それは  
むなしい人生



次長 丸山 正之(法4)  
藤井 雅仁(商4)  
局員 高橋 康文(人3)  
森原 明子(人3)

# 文化局

文化局長 藤本 哲司  
プロフィール

人文学部4回生  
廿日市高校卒業  
美術部



修大へようこそ……。

こうして再び、君たちは新たなスタートラインへ立ってしまったわけです。好むと好まざるに関らず、社会の中の大学生として、自由であるべき大学生として新しい世界へ解き放たれたのです。

何を目的として、此処へやって来たのかなどという愚問は避けましょう。そんなことは各々、自分で内に秘め思っていればよいことなのです。目的は十人十色、千差万別であるはずですし、人の目的にまで、とやかく口を狭む筋合はありません。

現代は、様々な価値基準、価値判断の許される時代なのです。本物のみに認められていた価値というものも、いつの間にか、偽物にも等しい価値を与えられ胸を張ることが許されてしまった時代なのです。中国四千代の歴史はインスタントラーメンになってしまったし、TVや雑誌でしか中森明菜を見たことのない人でも、その存在を疑う人はいませんし、さらに、一年分の講義ノートはコピーが氾濫しています。誰も本物を追求することを忘れてしまっています。

現代は、ある意味でまったく安易な妥協の時代なのかもしれません。人々は、何を頼りに、何を信じ、何を為すべきかまったく定めることができなくなったのかもしれません。キャンパス症候群などという病気にかかってフワフワ漂っている学生は、まさにその典型なのでしょう。

しかし、価値基準のない時代ならば、自分で作ってしまえばいいのです。自分はそれには絶対的な価値があると信じ、その獲得の為に、ポジティブな努力をすればいいのです。

要するに自分なりの目的を確認し認識することが大切なのです。

大学生活のスタートを切る前に、自分なりの目的を持つことを是非お進めします。価値ある大学生活にするために、自分の目的とする理想に向かって前進し努力されることを切に希望し、激励します。



次長 梶岡 良多(商4)  
      関東 和彦(商4)  
局員 新谷 秀明(商4)  
      石津 博己(商3)  
      上村 保子(商3)

# 厚生局

厚生局長 武島利通  
プロフィール

人文学部4回生  
熊野高校卒業  
天文研究会



諸君らは、これより広島修道大学学生の一員となるわけですが、その胸に様々な夢と希望を抱いていることでしょう。例えば、この4年間、自ら探究するところの学問についてより深く研究する人もいるでしょうし、この与えられた膨大な自由な時間を、好きな事をやるために過す人もいるでしょう。それが例え何であれ、目的を持って行動するということは、悪いことではありません。人はそれぞれの価値意識を持ち、その意識に従って判断し行動しているのであって、その行為に対して一律に規制することはできません。ただ、社会には道義というものがあって、それに反した行為は社会では全く通用しません。我々としては、皆さんに大学生活の間に自己の意識を高め、社会を正しく判断する力を養って欲しいのです。この4年という歳月を、就職するまでの〈モラトリアム〉である、という意識では把えて欲しくないのです。ぜひとも何かを学びとってもらいたいです。

まあ、建て前はこのくらいにして、私としては皆さんが学生生活を、思う存分楽しく悔いのないように過してくれればそれでいいのではないかと考えています。価値基準などというものは、学ぼうと思って即ち学べるものではなく、様々な経験や積み重ねることによって自然と身につくものだと思います。ですから、君達には人の迷惑にならないかぎり、奔放に学生生活を楽しく、明るくすごしてもらいたいと思います。



次長 泉 茂樹(商4)  
局員 伊藤 誠(人2)